

京阪奈丘陵の保全と学研都市計画

吉波 伸治

京都・大阪・奈良にまたがる京阪奈丘陵に、関西文化学術研究都市（学研都市）の建設が進められています。学研都市は12のクラスター（地区）からなり、その一つが、茶せんで知られる生駒市高山町付近の高山地区です。この地区は第1工区（45ha）と第2工区（288ha）に分かれており、第1工区はすでに開発が終わり、奈良先端科学技術大学院大学等3つの研究施設が設置されています。

第2工区は、奈良県・生駒市・住宅基盤整備公団（公団）による開発の予定地です。その開発は、公団施行の特定土地区画整理事業により計画人口2万4千人を想定した宅地造成（うち30haは研究施設用地）となっています。

第2工区は標高110～250m、ほとんどが丘陵地で河川沿いに平地が分布しています。樹木の大部分はクヌギ、コナラやアカマツの雑木林、山間部にはため池、棚田や草原も見られ、典型的な里山の景観がのどかに広がっています。奈良県が環境アセスメントのために行った調査では、第2工区において、哺乳類13種、鳥類71種（オオタカ、ハイタカ、ハチクマ、サシバ、ハヤブサなどの猛禽類を含む）、両生・爬虫類20種、昆虫813種（トンボは42種）、魚類14種、底生動物117種、高等植物594種が確認されています。アセス書ではこのうち、ダルマガエル、オオムラサキ、クロシジミ、ミズムシ、メダカ、キキョウ、キンラン、マツカサス

キといった貴重種を移植して保護に努めるとしています。また同様に、ハチクマ、ハヤブサ、オオタカ、ハイタカについても、前2者は渡り途中の確認だったから影響はなく、後2者については、残置地区の一部確保等により捕食対象となる鳥類の著しい減少を防げるとしています。

私たちは、第2工区の豊かな里山自然の保全を願っています。営巢はいまだ確認されていないものの第2工区はオオタカの行動圏であり、オオタカなどの猛禽類を頂点とする生態系を守りたいと考え、オオタカの徹底した生態調査を県に要望してきました。また、生態系を守るための方策（都市林の指定等）も追求していこうと考えています。

オオタカの住む計画予定地（生駒市）
の谷戸田と雑木林

